

晴 | 雨 | 計



先日、数少ない読者の一人に本欄について「専門の経済はテーマにしないのですか」と言われた。多分種に困っている私を心配しての助言だろうが、実は

経済は自信がないので、わざと避けてきたのである。かと言ってそう自信のある種もなくなってきた。そこで今回はいっそ一番自信のない「顔」の話を書くことにする。

ただでグツとする。ガマの油売りではないが、脂汗タラリで「入です」と言ってくれるが、まず見ない。自分の顔をテレビで見ると考え

出身の醜男(相当のもの)に「長州のトラフグ」というアタ名を付けたら「越後の食用ガエル」と付け返された。そんな私が、「男は年とともに自分の顔に責任を持つ」といった大それたことを考えてではないが、顔に關心心掛けていることがある。それは「顔施」ということである。

いとこ会

ある。顔には全く自信がない。銀行に入って間もない秋田時代、夕食に招かれた、上司の奥さんに「平山さんで、まゆも目も鼻も一つ一つはまあ整っているのに、惜しいと少しすずれて付いておるのよね」と言われた。もっとひどいのは、関

るのは笑顔を見せることだけです。仏教ではこれを顔施と言います……」
昨年二月、父方のいとこ会が村上で初めて開かれたので、おやじを連れて出席した。総勢二十四人、初対面のいとこもたくさんいたが、よく見ると、いろいろわ私に似た顔をしたらやつが……。そして、ふと隣を見ると最も私に似た、しかも「顔施」そのものという優しい顔がそこにあった。おやじだった。
三十五年ぶりに訪れたおやじの実家の庭には、私が小さい時登ってしかられた梅の木は既になかった。だが、この顔もまんざら捨てたものでもないと思いた。ながらいとこ会から帰って来た。

平山 征夫 (日本銀行 新潟支店長)

「いとこ会」

平山征夫

二十五年前の晴雨計で私が一

番自信のないのが「顔」だと告

白しているが、七十一歳の現在

は自信云々を通り過ぎてほぼ劣

等感に近くなっている。今、若

い時の写真を見ると、目鼻は確

かに少しずつずれているが、そ

れでも眼が輝いていて、我なが

ら「キリットしているなあ」と

感じる。最近は旅行でも自分の

写真は極力撮らない。後で見る

のが嫌だからだが、その一番の

理由は眼に輝きが無いことだ。

背中が曲がり、髪が薄くなり、

老醜は確実に進んでいるが、一

番シヨックなのは眼の輝きがな

くなり表情が変わって見えるこ

とだ。いつまでも「夢」を追い

かけキラキラ眼を輝かせていた

いのに・・・。

顔に自信がない仲間がいる。

歌手の小椋さんだ。丁度日経

の「私の履歴書」の連載が終わ

った処だが、その中でもそのこ

とを述べている。TVは勿論ス

テージもデビュー後避けていた

のはそのせいだ。小椋さんとは

お互い銀行員時代からの知り合

いで、私の方で勝手に「日銀の

小椋佳」と名乗って「シクラメ

ンのかほり」など宴会で歌って

いた。知事時代こんなことがあ

った。上越市でのコンサートに

来ていた彼をたまたま仕事で同

市に行っていた私が本番直前楽

屋に訪ねた後、少しだけと思い

最後席でこっそり聴いていた。

するとステージでおしゃべりを

始めた小椋さんが「私が一番や

りたくないのは人前に出ること。

こんな顔ですから・・・。そん

な私にも最近珍しくTVドラマ

の主役の話がきたんです」とき

た。「へー」と思っていると「そ

れが松本清張が主人公のドラマ

だったので断りました。でもさ

きほど楽屋に平山知事さんが見

えられたので思ったのですが、

私の代わりに推薦すればよかつ

たと・・・」。どう見ても彼の方

が相応しいのに・・・。

二十五年前顔に自信はないが

「顔施」に心がけていると書い

た。仏教の「無財の七施」の中

の「和顔施」である。改めてそ

の教えに想いを致してハツとし

た。顔施に徹していれば眼の輝

きはなくなってももっと優しい

顔になっているはず、修業が足

りていないぞ・・・と。良寛さ

んを手本に好々爺を指すので

はなかったのか？七施の中には

「愛語施」や「慈眼施」もある。

そういえば良寛さんは「和顔愛

語」という言葉が大好きだった。

あのいとこ会の時、おやじはい

い顔していたなあ。これからで

も務めてあのおやじのような和

顔に追いつこう！